

伊豆市生活交通ネットワーク形成計画（伊豆市地域公共交通網形成計画） ～概要～

1. 伊豆市の公共交通をとりまく現状と課題の整理

○現状把握のまとめ（計画書第1章）

①地域の状況

- ・**人口**：伊豆市は平成 7 年を境に人口減少に転じており、今後も人口の減少、少子高齢化が見込まれている。平成 32 年には高齢化率が 40%を超えることが想定されている。[p. 5]
- ・**地区**：伊豆市には修善寺、天城湯ヶ島、土肥、中伊豆の 4 つの地区（旧合併市町）が存在し、市の都市拠点（修善寺駅周辺）のほか、各地域の地域拠点が存在する。また、幹線道路沿いを中心に集落が分布する。[p. 6]
- ・**施設**：人口や各種施設は修善寺駅周辺に集中しているほか、医療施設や福祉施設、学校や郵便局は各地区の中心部に立地している。観光資源は市域全体に分布している。[p. 7～10]

②関連計画

- ・**目指すまちの形**：目指すべきまちの形としてコンパクトタウン&ネットワーク構想、文教ガーデンシティ構想が示されている。[p. 12～15]
- ・**小中学校再編**：伊豆市では土肥地区における小中学校の再編（平成 30 年 4 月）、修善寺地区、中伊豆地区及び天城湯ヶ島地区における中学校の再編（平成 32 年 4 月）を予定されている。[p. 11]
- ・**オリンピック**：平成 32 年東京オリンピックの自転車競技会場として伊豆市（ベロドローム）が選定されている。

③公共交通網の状況

- ・**多様な公共交通**：伊豆市は、鉄道（伊豆箱根鉄道）、路線バス（東海バスと伊豆箱根バス）、フェリー（駿河湾フェリー）、タクシーといった多様な公共交通が存在している。[p. 17]
- ・**カバー状況**：公共交通（鉄道駅半径 500m、バス停半径 300m）における人口カバー率は 72.1%である。地区別にみると、天城湯ヶ島地区 64.8%、中伊豆地区が 59.9%と比較的低い。中伊豆地区内などには交通空白地が存在する。[p. 18]
- ・**路線バス網**：路線バスは修善寺駅を中心に、修善寺各方面、中伊豆方面、天城湯ヶ島方面、土肥方面等の各方面に放射状に運行している。修善寺温泉場線、西海岸線、天城峠線の天城湯ヶ島までは 1 日 20 往復程度以上の運行がある一方、長野線や持越温泉線など 1 日 2 往復以下などの路線も見られる。[p. 19]
- ・**路線バス収支**：路線バスの収支率は、東海バスの事業者路線および他市自主運行バスが 68.8%、伊豆箱根バスの事業者路線が 62.9%、伊豆市の自主運行バスが 55.2%となっている。[p. 19]
- ・**支援制度**：伊豆市では通学や高齢者のバス利用に関する多様な支援制度を有する。[p. 16]

④移動実態及びニーズ（平成 27 年度南伊豆・西伊豆地域公共交通網形成計画におけるアンケート調査結果より）

- ・**外出先**：買い物先、通院先は市内の施設の利用が多いが、市外の施設（順天堂病院など）の利用も見られる。高校生の通学は、市内の高校へ通学する生徒が多いが、伊豆の国市や三島市へ通学する生徒も比較的多く、修善寺駅で伊豆箱根鉄道に乗り換えて移動する通学者も多い。[p. 32～33、36～37]
- ・**移動実態**：買い物、通院などいずれの目的においても、自動車の移動が中心となっている（いずれの目的も自動車を利用する割合は 7 割前後となっている）。[p. 32～33]
- ・**公共交通利用**：鉄道は 58.3%が利用、路線バスは 30.5%が利用しているが、それぞれの半数程度が月 1 日程度以下であり、週 5 日以上の利用は鉄道利用者の 9.4%、路線バス利用者の 15.3%である。[p. 34～35]
- ・**移動の満足度**：現在の移動の満足度は、通勤・通学、買い物、通院の目的において、3 割から 5 割の方が満足と回答している一方で、将来の移動についてはいずれの目的についても不安があると回答している。[p. 39、40]
- ・**公共交通への意向**：公共交通が改善された際には、多くの方が「できる限り利用したい」と回答している。[p. 41]

○公共交通をとりまく課題のまとめ（計画書第2章）

課題 1 人口減少、少子高齢化への対応

- ・人口減少が予測されている中、公共交通利用減少の懸念への対応や、高齢化の進展による高齢者の足の確保への対応が求められる。
- ・伊豆市内各地区の地域特性、都市拠点や地域拠点といった拠点の存在、集落の分布など、各地区の実態に即した公共交通網の構築が求められる。
- ・市民の移動先となる目的施設への移動手段の確保が求められる。

課題 2 将来都市像、オリンピック・パラリンピックへの対応

- ・「コンパクトタウン&ネットワーク構想」「文教ガーデンシティ構想」などの将来都市像を見据え、中心拠点への行きやすさ、周遊のしやすさ、地域拠点の行きやすさ等の対応が求められる。
- ・学校再編とあわせた児童・生徒の学校への通学手段の確保が求められる。
- ・オリンピックやイベントを見据えた来訪者の交通手段の確保等の対応が求められる。

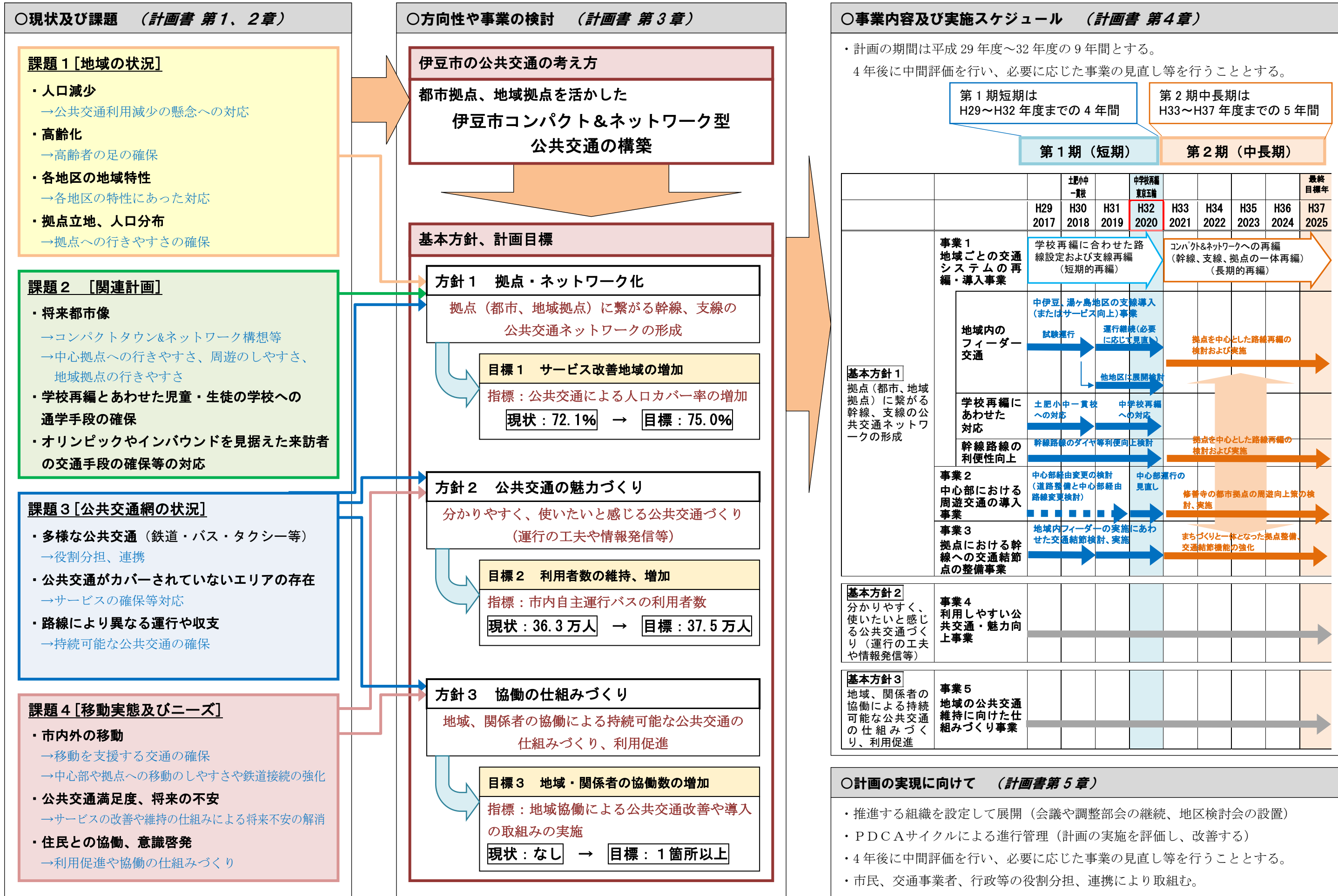
課題 3 公共交通の利用者数減少、非効率化への対応

- ・伊豆市域における多様な公共交通の役割分担、連携が求められるほか、公共交通がカバーされていない地域への対応の検討が求められる。
- ・地域によって公共交通のサービス状況が異なる一方、路線ごとに利用や収支に違いがある。例えば自主運行バスは特に収支率が低い現状にあることから運行本数といったサービスを上げることが困難な状況にある。このような中、地域ごとに地域に見合った持続可能な公共交通体系の構築が求められる。
- ・事業者の路線バスについても収支率の課題があり、今後の持続可能な公共交通の確保という視点より、改善や利用促進等の取組みが求められる。

課題 4 移動ニーズへの対応

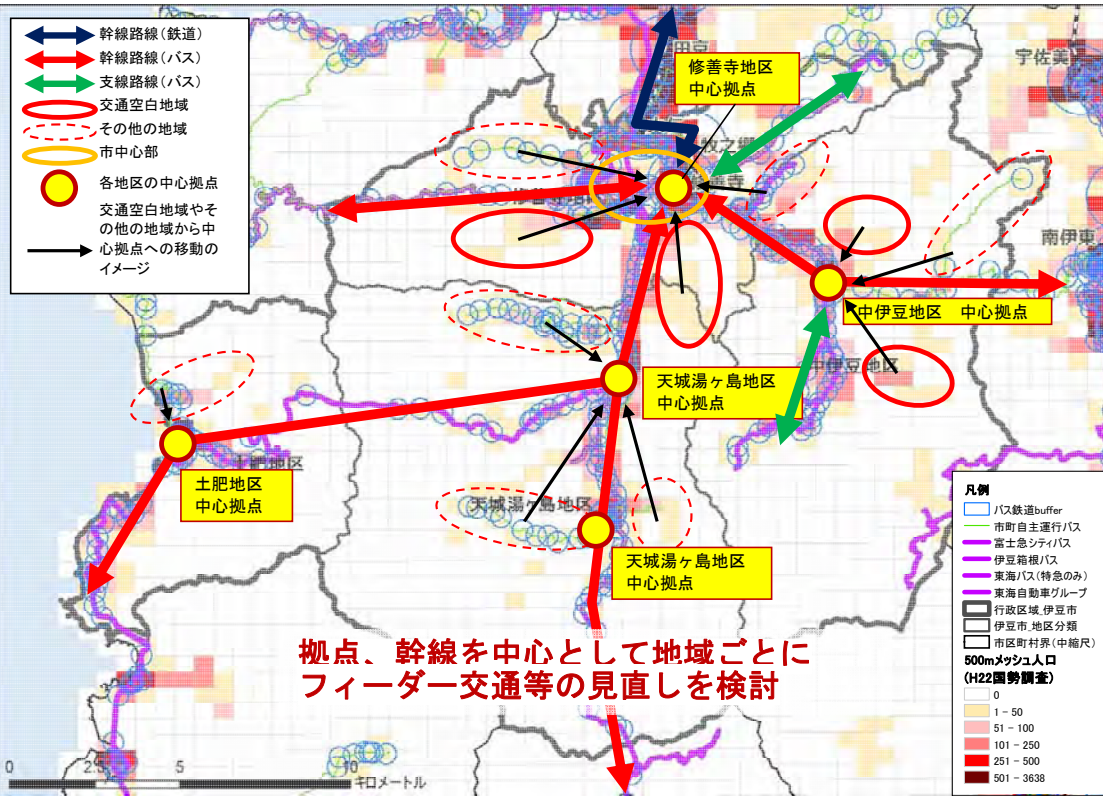
- ・市内に分布する買い物先や通院先への対応のほか、市外の施設利用なども踏まえた公共交通網の構築が求められる。また、高校生の通学先である市内外へ高校への通学のしやすさの確保が求められる。
- ・住民意向調査では、中伊豆地区や土肥地区の移動の満足度が低い状況が確認されており、修善寺駅を中心とする路線バスの利便性の向上などの中心部への外出のしやすさの確保や鉄道との接続強化を図ることが求められる。
- ・将来の移動の不安（運転が出来なくなった場合）への対応として、将来を見据えた公共交通の維持やサービスの確保の対応が求められる。
- ・公共交通改善への意向で多くの方が出来る限り利用したいと回答している。住民との協働や意識啓発による維持や利用促進の取組みなども求められる。

2. 課題を踏まえた基本方針、計画目標、施策内容



具体施策の内容

事業1：地域ごとの交通システムの再編・導入（支線の設定）事業

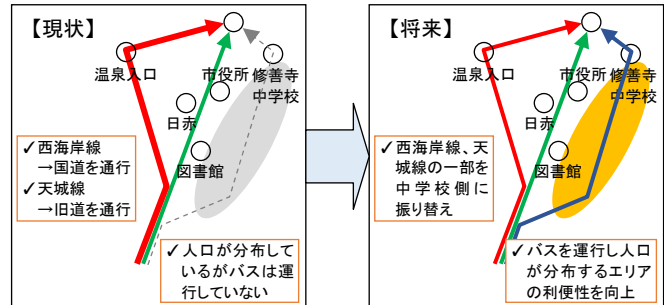


	短期：学校再編や試験運行など短期的取組みとして実施する内容	中長期：まちづくりと一体となって実施する内容
修善寺地区	<ul style="list-style-type: none"> 中学校再編にともなう日向方面への路線乗入れ等により空白地区をカバー。 道路改良を見据え、市役所・日赤病院前経由など回遊性の高まる路線設定 幹線区間の維持強化。 	<ul style="list-style-type: none"> 湯舟地区、大沢方面、入屋方面については利用促進を踏まえた改善検討。 文教ガーデンシティ構想を踏まえた、中心部回遊交通手段の導入。
中伊豆地区	<ul style="list-style-type: none"> 筏場、沢口方面の日中フィーダ化を実証運行を通じて段階的に実施。 既存バス路線の運行ダイヤ、補助制度を含めフィーダー化検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 八幡の地域拠点としての強化とあわせた八幡以南、以東のフィーダー導入。 八幡におけるフィーダーと幹線の結節強化（ダイヤ接続、運賃接続等）。
天城湯ヶ島地区	<ul style="list-style-type: none"> 柿木、長野、持越方面の日中フィーダ化を実証運行を通じて段階的に実施。 既存バス路線の運行ダイヤ、補助制度を含めフィーダー化検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 湯ヶ島等の地域拠点としての強化とあわせた地域内フィーダー導入。 拠点におけるフィーダーと幹線の結節強化（ダイヤ接続、運賃接続等）。
土肥地区	<ul style="list-style-type: none"> 幹線の西海岸線の維持強化につながるようなダイヤの工夫。 西海岸線の停留所へのアクセス性向上について、段階的に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 土肥支所、温泉等の地域拠点としての強化とあわせた地域内フィーダー導入。 拠点におけるフィーダーと幹線の結節強化（ダイヤ接続、運賃接続等）。

事業2：中心部における周遊交通の導入事業

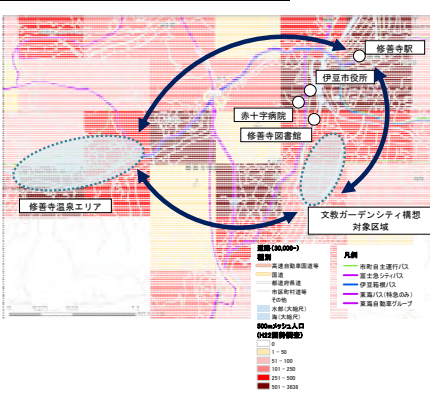
① 市中心部における路線バスルートの見直し検討

・各方面から修善寺駅の路線の一部について、中学校再編などとあわせルート変更を行い、路線バスの利用可能な範囲を拡大する。



② 市中心部の施設周遊交通の導入検討

・修善寺駅周辺の、将来都市構想として文教ガーデンシティ構想とあわせ、伊豆赤十字病院や伊豆市役所などの施設や温泉地などを結ぶ中心部周遊交通を検討する。



事業3：拠点における幹線への交通結節点の整備事業

① 中心部拠点（修善寺駅）の整備

・伊豆市および伊豆半島の玄関口である修善寺駅について、訪日外国人も含め、結節機能の向上（案内の多言語化、事業者間で連携したバス情報の提供、総合時刻表の提示、駅の案内の改善など）を目指す。



② 地域拠点の整備(八幡、出口、湯ヶ島、土肥等)

・八幡、出口、湯ヶ島、土肥温泉周辺などの地域拠点では、周辺施設と連携した待合環境の整備を目指すほか、周辺の観光施設の案内、バスの発着情報の提供などを旨とする。



事業4：利用しやすい公共交通・魅力向上事業

① 魅力（興味、きっかけづくり）の向上



② 分かりやすさ（鉄道、バス、地域交通）の向上



③ お得感の付与



④ 協力意識、利用意識

モビリティ・マネジメント
学校教育、交通教育
エコライフスタイルの提案



事業5：地域の公共交通維持に向けた仕組みづくり事業

① 協働の仕組みづくりの目的と考え方

・今年度実施した住民意見交換会は地域のニーズ把握としての実施であるが、地域交通の取組みとして地域住民が自らの課題として考え取組む方法の形に移行し、責任意識を持った公共交通の利用や維持を図っていく仕組みを作っていく。

② 協働の仕組みのイメージ（検討の流れ）

・地域交通の検討、実施を地域と協働で実施する。

